

標本はどこにある？
日本でのコレクション調査の現
状と世界の動向

海老原 淳
(国立科学博物館)

1. 「コレクション調査」とその意義
2. 日本でのコレクション調査の現状
3. GRBio: 地球規模での生物コレクションレポジトリ

1. 「コレクション調査」とその意義

「コレクション調査」

- 個別の標本の情報ではなく、「標本群」の属性情報（メタデータ）を収集する。

例)

- 国立科学博物館の菌類コレクション
TNS F

- 山階鳥類研究所の鳥類コレクション
YIO YIO

機関コード
(アクロニム)

コレクション記
号

- ・現在の活動状況
- ・所在地
- ・連絡先
- ・総点数
- ・含まれるタイプ標本
- ・特徴(地域・分類群・採集者)
- etc.

コレクション調査の結果は 何に役立つか？

1. 研究目的、展示目的等で必要な標本を探しやすくなる。

S-Netに全標本のデータが投入されるまでには
長い時間を要する。

1. 「コレクション調査」とその意義

コレクション調査の結果は 何に役立つか？

2. サイエンスミュージアムネットの長期的な計画・
戦略の立案への活用。

データ未提供の機関・コレクションの把握

1. 「コレクション調査」とその意義

コレクション調査の結果は 何に役立つか？

3. 非常時対応の迅速化

災害発生時に、被害を受けた可能性のあるコレクションを迅速に把握 → 早期レスキュー実現

2. 日本でのコレクション調査の現状

日本国内での コレクション調査を巡る状況

対象: 現生種の標本

動物

動物全体をカバーするコレクション調査は行われたことがない。
(例外的にデータが存在する分類群が少数ある)

植物

植物標本庫(ハーバリウム)の国際的な目録として、Index Hebariorum (IH)が存在している。

日本植物分類学会ハーバリウム問題検討専門委員会による調査(1997年)は、IH未登録のコレクションもカバーしている。

2. 日本でのコレクション調査の現状

Index Herbariorum

<http://sweetgum.nybg.org/science/ih/>



NYBG/125 Home Collections Discover History Virtual Herbarium Digitization

Herbarium @ NYBG

Index Herbariorum

For the past three centuries, scientists have documented the earth's plant and fungal diversity through dried reference specimens made into collections known as herbaria. There are approximately 3,000 herbaria in the world today, with approximately 12,000 associated curators and biodiversity specialists. Collectively the world's herbaria contain an estimated 350,000,000 specimens that document the earth's vegetation over the past 400 years. *Index Herbariorum* is a guide to this crucial resource for biodiversity science and conservation.

The [Index Herbariorum \(IH\)](#) entry for an herbarium includes its physical location, URL, contents (e.g., number and type of specimens), as well as names, contact information and areas of expertise of associated staff. Only those collections that are permanent scientific repositories are included in IH. New registrants must demonstrate that their collection is accessible to scientists, and is actively managed. Each institution is assigned a permanent unique identifier in the form of a one to eight letter code, a practice that dates from the founding of IH in 1935.

The first six editions of *Index Herbariorum* were published by the International Association for Plant Taxonomy in the Netherlands (1935), then Patricia Holmgren, then Director of the New York Botanical Garden, served as co-editor of edition 6, and subsequently became the sole editor. She oversaw the compilation of hard copy volumes 7 and 8, and Dr. Noel Holmgren, a scientist on the NYBG staff, oversaw the development of the online database, which became available on-line in 1997. In September 2008, Dr. Barbara M. Thiers, Director of the NYBG Herbarium, became the current editor.

SEARCH BY HERBARIUM CODE

Use the field below to search the database using the herbarium code as the search criteria. Enter the herbarium code in the field and click the Search button to execute the query.

3400のハーバリウム
(3.5億点の標本)
10000人のスタッフ

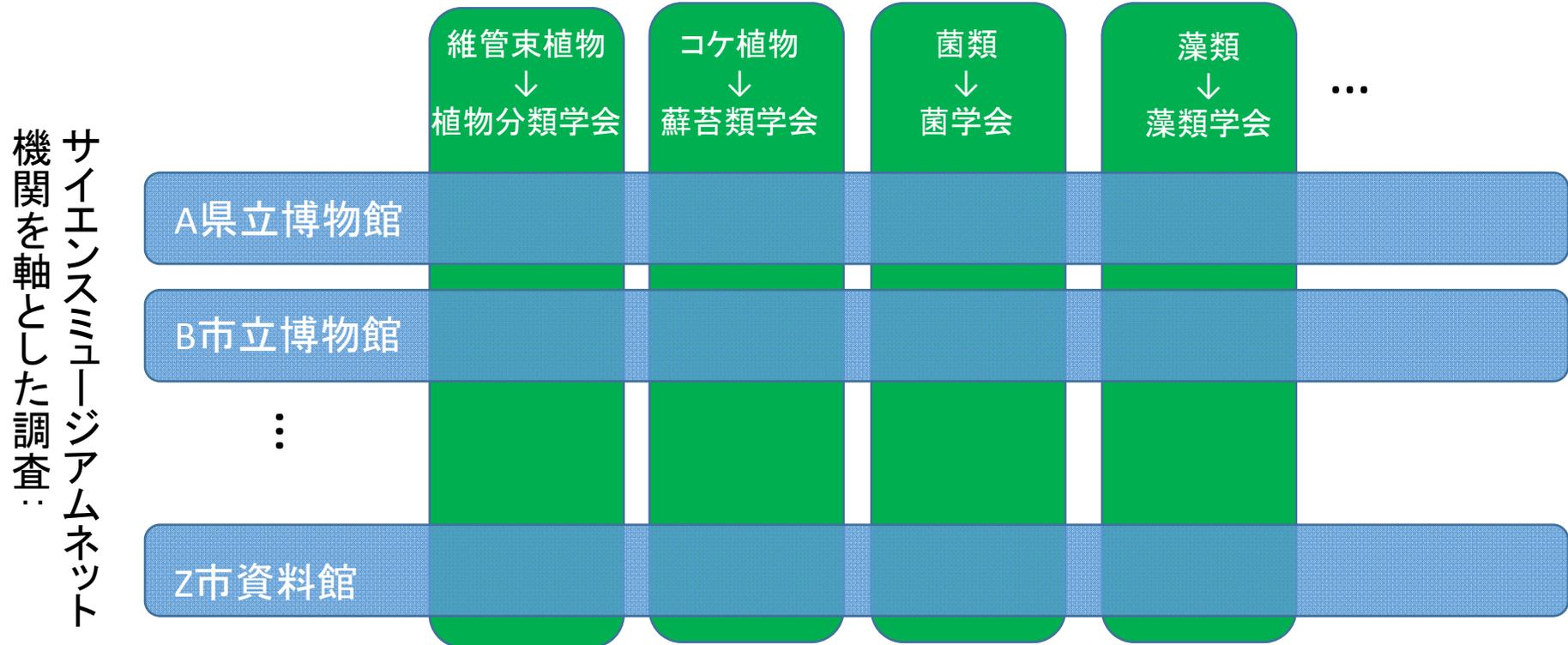
が検索可能

ユニークな機関コード(ア
クロニム)で管理される

2. 日本でのコレクション調査の現状

国内の生物重要コレクション調査 (2012年～)

生物の分類群を軸とした調査：日本分類学会連合



- 「機関軸」と「分類群軸」の2つの調査から漏れなく情報を収集

国内の生物重要コレクション調査

公開

- 現在活動中か否か
- 分類群ごとの点数
- コレクションの概要(採集者・地域)
- タイプ標本の点数

非公開

-
- データベース化された割合
 - 未整理標本の数

国内の重要コレクション調査結果 (植物関係)

- 全**272**施設
- うち現在活動中 **178**

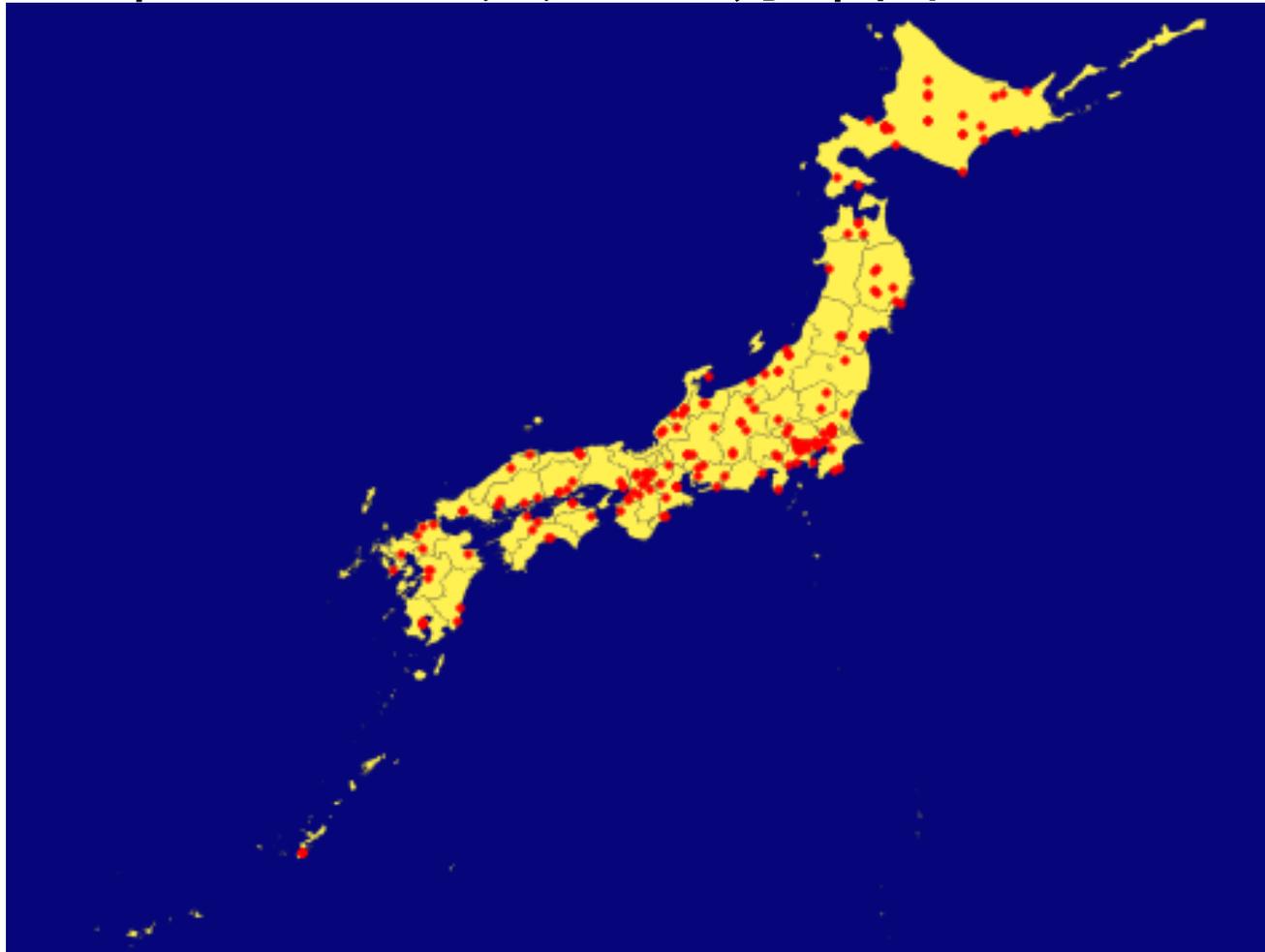
大学関係:	72	
都道府県関係:		38
市町村関係:		52
国立施設:		10
その他:		6

- 都道府県ごとのばらつき大
 - 北海道: 22施設
 - 長崎県: 0

2. 日本でのコレクション調査の現状

国内の生物重要コレクション調査(植物)

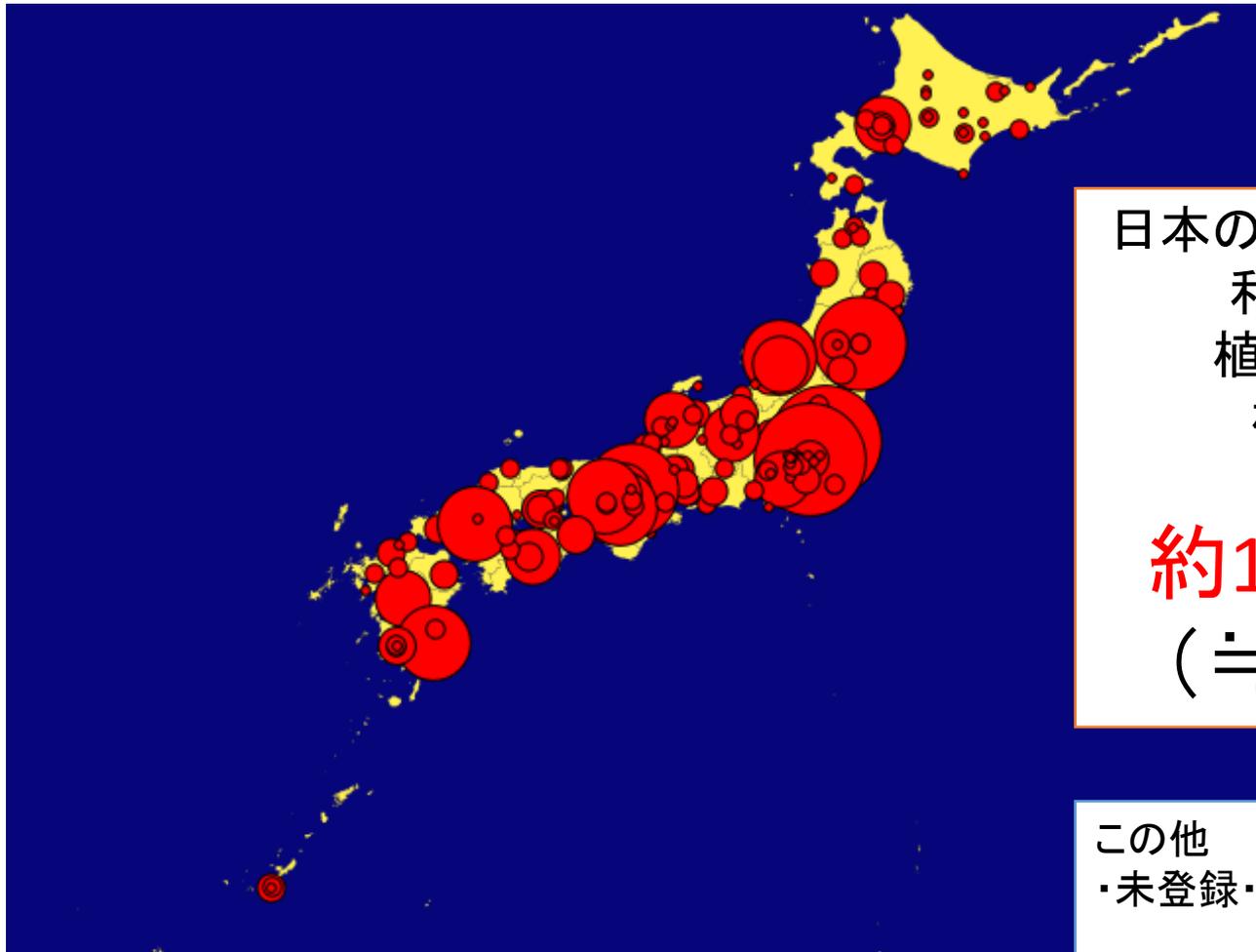
- 日本のハーバリウムの分布図



2. 日本でのコレクション調査の現状

国内の生物重要コレクション調査(植物)

- 日本のハーバリウム分布と収蔵点数



日本のハーバリウムで
利用可能な
植物・菌類の
標本総数

約1500万点
($\approx P + NY$)

この他
・未登録・未整理標本
もあり

2. 日本でのコレクション調査の現状

国内の生物重要コレクション調査(植物)



日本分類学会連合
The Union of the Japanese Societies for Systematic Biology

HOME | 連合について | 加盟学会 | シンポジウム | ニュースレター | 日本産生物

HOME > [国内重要コレクション調査]

国内重要コレクション調査

日本分類学会連合データベース委員会では、2012年度から日本国内にある重要な自然史標本コレクションの実態把握を目指し、加盟学会の協力を受けながら調査を進めています。そのうち、植物分野(維管束植物・コケ植物・藻類・菌類)については情報収集がある程度進んだため、現時点までに得られた情報の一部を公開することとしました。現在公開中のファイルに対しての追加・アップデート情報をご提供いただける場合には、下記メールアドレスまでお知らせください。

ebihara@kahaku.go.jp

■ 国内重要コレクション調査 [植物標本]

調査協力

- 日本植物分類学会(維管束植物コレクション)
- 日本蘚苔類学会(コケ植物コレクション)
- 日本菌学会(菌類コレクション)
- 日本藻類学会(藻類コレクション)

<http://www.ujssb.org>

2. 日本でのコレクション調査の現状

国内の生物重要コレクション調査(植物)

国内重要コレクション調査[植物標本]
(取りまとめ: 日本分類学会連合データベース委員会)

都道府県	活動状況	組織名	アロニムID	移管先	情報源	総登録点数	維管束植物(植物分類学会)		コケ植物(蘚苔類学会)	
							登録(整理済)点数	タイプ点数	登録(整理済)点数	タイプ点数
北海道	活動中	北海道大学水産学部	HAK		*1	[11000]	?			
北海道	活動中	北海道大学大学院理学院	SAP			100000	なし		なし	
北海道	活動中	北海道大学総合博物館	SAPA			114753	なし	300		
北海道	活動中	北海道大学総合博物館	SAPS	SAPA(書籍)		299000	271400	300	26900	
北海道	活動中	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園				60000	60000弱		1000	
北海道	情報無し	北海道大学農学部森林科学科木材生物学講座			*2	[200]	[200]		[なし]	
北海道	情報無し	北海道大学薬学部附属薬用植物園			*2	[5321]	[4786]		[なし]	
北海道	情報無し	北海道大学理学部附属臨海実験所水族室			*2	[15]	[なし]		[なし]	
北海道	活動中	帯広百年記念館				6507	6500	なし	5	
北海道	活動中	浦幌町立博物館				404	400	なし	なし	
北海道	活動中	本別町歴史民俗資料館				117	117	なし	なし	
北海道	活動中	釧路市立博物館				7171	6000	なし	1095	
北海道	活動中	苫小牧市博物館				3507	3000	なし	507	
北海道	活動中	小樽市総合博物館				20500	20000	なし	100	
北海道	活動中	北海道開拓記念館				?	?		?	
北海道	活動中	旭川市北邦野草園				3000	3000	なし	なし	
北海道	活動中	東京大学農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林				6550	6550	なし	なし	
北海道	活動中	旭川市博物館				1500	1500	なし	なし	
北海道	活動中	札幌市博物館活動センター				7085	6729	なし	なし	
北海道	活動中	富良野市博物館				328	328	なし	なし	
北海道	活動中	厚沢部町土橋自然休養林				不明	不明		不明	
北海道	活動中	えりも町郷土資料館ほろいずみ				1000	?		?	
北海道	活動中	十別市立博物館				582	582		なし	

<http://www.ujssb.org>

2. 日本でのコレクション調査の現状

国内の生物重要コレクション調査 (機関軸での調査結果)

<http://www.gbif.jp/v2/pdf/zenkoku20140613.pdf>

全国コレクション調査・動物・地質部門 登録標本のみを集計(一部の館*を除く)

2014年6月13日現在

都道府県	機関名	動物・地質 合計	動物部門								地質部門		備考
			哺乳類	鳥類	魚類	両生爬虫類	昆虫	貝類	甲殻類	その他	化石	岩石地質	
北海道	釧路市立博物館	56,152	100	1,200	2,500	13	48,652	221	200	0	2,824	442	ドイツ箱1箱30匹として計算した。
北海道	札幌市博物館活動センター	59,616	16	36	30	0	56,218	23	0	0	2,872	421	昆虫欄には「昆虫を含む動物」も含む。
秋田	秋田県立博物館	152,972	138	516	822	87	20,000	129,608	935	866	0	0	
山形	よねざわ昆虫館	500	0	0	0	0	500	0	0	0	0	0	
山形	山形県立博物館	49,135	407	3,045	1,292	325	22,906	9,759	248	166	8,807	2,180	
茨城	国立科学博物館	628,763	34,849	9,760	96,078	4,068	171,914	20,063	17,826	60,621	51,839	161,745	
栃木	栃木県立博物館	50,914	0	0	0	0	50,914	0	0	0	0	0	
群馬	群馬県立自然史博物館	63,110	3,173	1,685	768	0	36,766	10,691	470	212	5,193	4,152	
千葉	我孫子市鳥の博物館	2,600	0	2,600	0	0	0	0	0	0	0	0	
千葉	千葉県立中央博物館	282,128	5,227	1,666	14,223	2,050	142,945	69,507	11,797	2,509	15,910	16,294	他に地学景観画像が217点ある。
東京	目黒寄生虫館	23,200	0	0	0	0	0	0	0	23,200	0	0	その他は「寄生虫」。
神奈川	(独)海洋研究開発機構 (JAMSTEC)	42,500	0	0	0	0	0	0	0	27,000	0	15,500	その他は「深海生物」。岩石地質のうち6400件は堆積物コア。
神奈川	横須賀市自然人文博物館	784,724	400	1,000	440,000	280	330,000	9,000	1,000	0	2,200	844	爬虫類には両生類を含む。
神奈川	神奈川県立生命の星・地球博物館	141,324	4,127	2,462	34,730	721	29,028	21,581	10,794	66	12,308	25,507	2013年6月14日付データ件数。この他、画像(魚類他)が177000件ある。
神奈川	大磯町郷土資料館	5,500	0	0	0	0	1,500	4,000	0	0	0	0	
滋賀	琵琶湖博物館	161,539	1,278	1,148	54,323	491	34,610	14,297	0	12,405	30,550	12,437	この他、画像(珪藻など)が65000件ある。
大阪	きしわだ自然資料館	17,530	320	0	4,000	0	11,000	1,300	300	0	110	500	哺乳類は脊椎動物を含む。
大阪	貝塚市立自然遊学館	18,966	0	0	300	0	17,228	300	800	338	0	0	その他は「クモ」。
大阪	大阪市立自然史博物館*	1,142,172	2,590	6,860	38,905	29,936	937,136	34,363	15,588	11,067	59,982	5,745	未登録標本も含む所蔵標本の数を示す。その他は「クモ」、「環形動物」他。
兵庫	姫路科学館	8,471	0	0	0	0	8,471	0	0	0	0	0	
岡山	倉敷市立自然史博物館	212,045	74	153	14,861	355	178,820	0	0	11,688	2,627	3,467	動物その他には貝類、甲殻類を含む。
鳥根	鳥根県立三瓶自然館	28,355	152	1,630	0	0	24,000	0	1,900	0	544	129	
徳島	徳島県立博物館	47,118	364	505	22,086	124	3,974	7,282	3,045	553	6,012	3,173	甲殻類には、節足動物(昆虫以外)を含む。
愛媛	愛媛県総合科学博物館	85,992	1,269	0	0	0	81,565	0	0	0	212	2,946	哺乳類には、昆虫以外の動物を含む。
愛媛	面河山岳博物館	24,948	0	0	0	0	24,948	0	0	0	0	0	
福岡	北九州自然史歴史博物館	85,561	17,605	0	0	0	29,953	0	15,690	153	2,583	19,577	哺乳類には、原生脊椎動物を含む。甲殻類には他の無脊椎動物も含む。
佐賀	佐賀県立宇宙科学館	26,374	16	105	0	0	24,853	1,400	0	0	0	0	貝類に一部底生生物を含む。
熊本	熊本博物館	35,597	134	361	4,571	240	8,517	2,052	98	384	3,994	15,246	
合計		4,237,806	72,239	34,732	729,489	38,690	2,296,418	335,447	80,691	151,228	208,567	290,305	

動物コレクションの情報を どう集めるか？

- 叩き台となるデータがほとんどないため、植物のように短期間で調査することは困難。
- 比較的情報が把握されている分類群から徐々に進めていくしかない。

ADNHC(GBIFによるコレクション調査)

地球規模生物多様性情報機構 (GBIF) からのアンケート

地球規模生物多様性情報機構 (GBIF) は、世界の生物多様性情報を共有し、誰でも自由に閲覧・解析できる仕組みをつくるために活動しています。その活動の一環として、多くの人々がその存在を知らない世界各地の生物標本コレクションを探し出すための委員会 ([GBIF Task Force on Accelerating Discovery of Biocollections Data](#)) がアンケートを作成しました。

本調査の目的

インターネットを介した自然史標本の情報や画像等へのアクセスは、ますます重要になっています。特に環境問題や生物を扱う研究・教育・行政機関の関係者にとって、このような情報に自由にアクセスできる環境は非常に重要になってきています。そのためには、まず、どこにどんなコレクションがあるのか、知ることが必要です。

そこで、世界各地および日本国内の標本情報の電子化の進捗状況を把握するため、本アンケートを作成しましたので、ご協力をお願いします。本アンケートは、標本関連情報の電子化を促進するため、各地の標本コレクションの発掘・活用を最大の目的としています。アンケート結果は、21世紀における研究や教育、政策のための自然史標本コレクションの整備および促進のために活用されます。また、回答いただいた方には以下の情報を提供します：(1) 世界の生物コレクションの電子化の進捗状況、(2) コレクションの電子化がもたらす利益、(3) コレクションの電子化を妨げる障害等の集計結果。

3. GRBio: 地球規模での生物コレクションレポジトリ

GRBio

(The Global Registry of Biodiversity Repositories)

<http://grbio.org/>

- 生物コレクションの地球規模の情報集積センター
(データベース)
- Since 2013
- “Biorepository“
 - ✓ リビング・コレクションや、化石、医学系コレクションも、データの受け入れには対応している模様だが、実際にはほとんどデータは入っていない。
(カルチャーコレクションは一部入っている)

3. GRBio: 地球規模での生物コレクションレポジトリ

GRBio

(The Global Registry of Biodiversity Repositories)

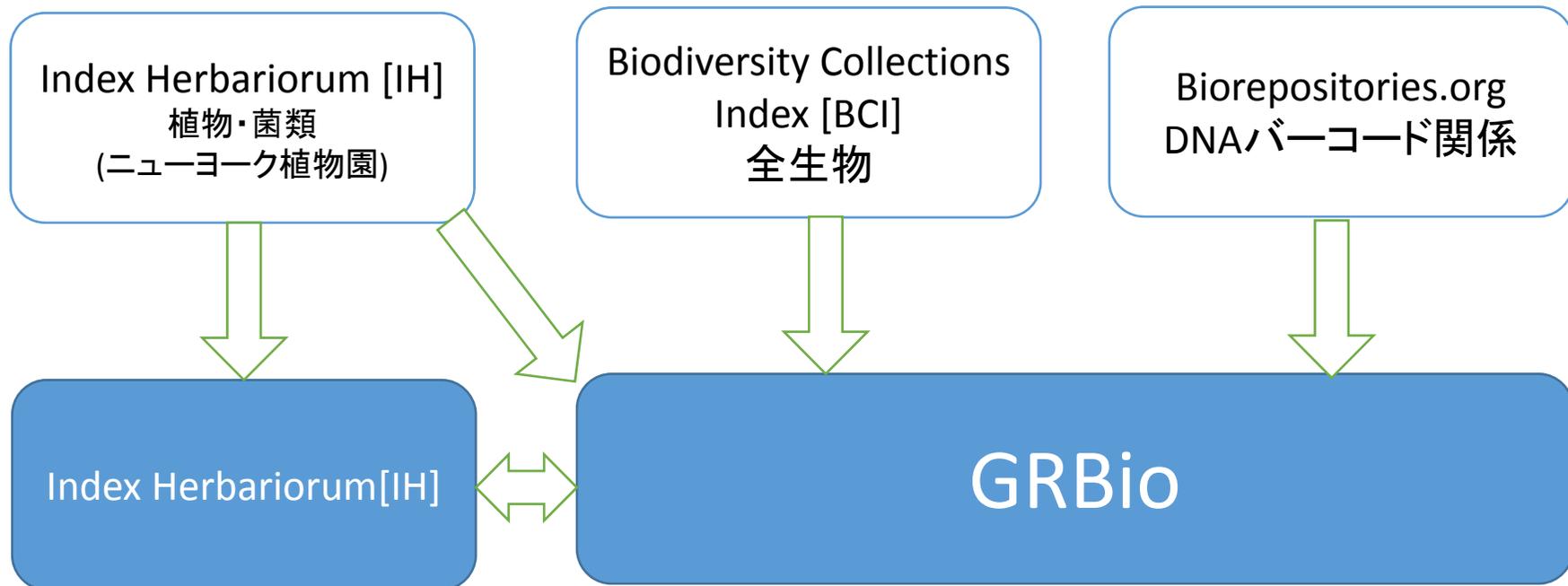
- 扱う情報: コレクションの属性情報
(所在地、連絡先、機関略号、コレクション記号etc.)
- 679機関、6993のコレクション
+35の個人コレクション、12945名のスタッフ (2016.6.7現在)
- 情報はオンラインフォームから提供可能

3. GRBio: 地球規模での生物コレクションレポジトリ

GRBio

(The Global Registry of Biodiversity Repositories)

情報源



3. GRBio: 地球規模での生物コレクションレポジトリ

GRBio

(The Global Registry of Biodiversity Repositories)

目標

- 機関・コレクション・標本・スタッフの情報へのアクセスを容易にする。
- **ユニークな**機関略号＋コレクション記号 をキーに、web上で上記情報をリンクする。

3. GRBio: 地球規模での生物コレクションレポジトリ

GRBio

(The Global Registry of Biodiversity Repositories)

課題

- 約130の機関コードが重複している
(複数の異なる機関が同じコードを使用)
- 日本関係は8件が該当。

この他に、S-Netで使用している機関コードにはGRBio未登録のものが多数あり、それらは海外との重複が多数あり。

3. GRBio: 地球規模での生物コレクションレポジトリ

GRBio上で重複している機関コード (日本: 8機関)

FRI	Food Research Institute, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries	Food Research Institute, Bratislava, Slovakia
IAM	IAM Culture Collection, Center for Cellular and Molecular Research	Instituto Arguelogico Municipal, Spain
IFM	Research Center for Pathogenic Fungi and Microbial Toxicoses, Chiba University, Japan	IFM Quality Services Pty Ltd, Australia
IMT	Imperial Museum	Micoteca do Instituto de Medicina Tropical de Sao Paulo, Brazil
LBM	Lake Biwa Museum	Laboratorio de Biologia Molecula Depto de Biologia Celular, Brazil
MUCC	Mie University Culture Collection (Culture Collection, Laboratory of Plant Pathology)	Murdoch University Culture Collection, Australia
NSM	NSM-PV, National Science Museum	Nova Scotia Museum of Natural History, Canada
URM	University of the Ryukyus	Universidade Federal de Pernambuco, Brazil

GRBioがコードの変更を強要することはないが、自主的な変更(重複回避)はOK。

S-Netでデータ公開中の70機関の略号 — GRBio上のデータの照合結果

結果	機関数
未登録	37
未登録、既に別機関が同じ略号をGRBioで使用	6
登録済み (IH経由も含む)	25
登録済み、重複あり	2

今なら、同じ略号が使用可能

変更を検討するのが無難。

詳細な情報提供を求められている。自主的に変更可。

3. GRBio: 地球規模での生物コレクションレポジトリ

未登録、既に別機関が同じ略号 をGRBioで使用中

ICM	伊丹市昆虫館
KMM	川崎市青少年科学館
MZ	宮崎県立博物館
NMG	芸北高原の自然館
SMNH	埼玉県立自然の博物館
TMNH	豊橋市立自然史博物館

該当館は異なる略号の使用を検討するのが無難である。
(S-Netで使用する機関略号も同時に変更する方が便利だろう)

3. GRBio: 地球規模での生物コレクションレポジトリ

GRBio [Institutions]

- 日本からは217機関が登録済み。
(1館が複数の機関略号を持つ場合があるため重複あり – 例: 科博動物NSMT, 科博植物TNS)
- うち70機関はIndex Herbariorum由来のデータ。

Biorepository: National Museum of Nature and Science

[View Record](#) [Edit Record](#) [Add Collection](#) [Add Staff Member](#)

Institution Information

Index Herbariorum Record:	Yes
InstitutionCode:	TNS<IH>
Status of Institution:	Active
Additional Institution Names:	Herbarium
Description of Institution:	Updated Feb 2012. Formerly National Science Museum, Tokyo
URL for Main Institutional Website:	http://www.kahaku.go.jp/english/
Institutional Discipline:	
Institutional Governance:	(empty)

3. GRBio: 地球規模での生物コレクションレポジトリ

GRBio [Collections]

- コレクション記号(大分類群等を示す文字/数字)のデータベース
- 世界から6993コレクションが登録されているが、日本からの登録はまだ1件もなし。

Collection Code ▲	Collection Name	Institution Code (IH Code)	Institution Name	Country	Status
MSB:host	Host Collecton	MSB	Museum of Southwestern Biology	USA	Active
MSBHERP	Division of Amphibians & Reptiles	MSB	Museum of Southwestern Biology	USA	Active
MVC	Marine Vertebrates Collection	SIO	Scripps Institution of Oceanography		Active
MYC	Mycology Collection	NYS	New York State Museum		Active
myco	Fungus Collection	ILLS	Illinois Natural History Survey	USA	Active
Myrm	Myrmecology	UTEP	University of Texas at El Paso Biodiversity Collections	USA	Active

3. GRBio: 地球規模での生物コレクションレポジトリ

GRBio [Staff members]

- 世界から12945名、日本からは200名が登録済み。
- 大半はIndex Herbariorumからの移行データのため、やや古いものも見受けられる。
- S-Netの学芸員DBからの連携は、情報の英訳が課題。

Last Name ▲	First Name	Primary Institution	Institution Code	Collection Code	Country	Research Specialty
Abe	Tsuyoshi	Hokkaido University	SAP<IH>		Japan	Marine algae
Abe	Yukiko	Akita Prefectural Museum	AKPM<IH>		Japan	Flora of Japan
Akiyama	Hiroyuki	Museum of Nature and Human Activities	HYO<IH>		Japan	Bryophytes
Amano	Makoto	Natural History Museum and Institute	CBM<IH>		Japan	Vascular plants; cytotaxonomy
Amsgaya	Sakae	Tsumura Laboratory	THS<IH>		Japan	Pharmacognosy
Arita	Ikuo	Tottori Mycological Institute	TMI<IH>		Japan	Biology and cytology of <Pholiota nameko>
Azuma	Hiroshi	Kyoto University	KYO<IH>		Japan	Magnoliaceae
Ban	Sayaka	National Institute of Technology and Evaluation	NBRC<IH>		Japan	Taxonomy and ecology of insect fungi

3. GRBio: 地球規模での生物コレクションレポジトリ

S-Net 研究員・学芸員検索

<http://science-net.kahaku.go.jp/snet/curator/>

研究員・学芸員検索 | [トップ](#) | [戻る](#) |

 **検索結果一覧**

501名ヒットしました。 1～10件を表示 [1] [2] [3] [4] [5] [6] ... [51]

	氏名	専門分野	担当分野	都道府県	博物館名
1	船木 信一	鳥類学	鳥類	秋田県	秋田県立博物館
2	梅津 史	昆虫学	昆虫	秋田県	秋田県立博物館
3	山田 格	海棲哺乳類学、脊椎動物比較形態学	海生哺乳類	茨城県	国立科学博物館
4	篠原 現人	魚類分類学、系統分類学、形態学、動物地理学	深海魚、亜寒帯性魚類	茨城県	国立科学博物館
5	西海 功	鳥類学、分子生態学、系統地理学	鳥類	茨城県	国立科学博物館
6	濱尾 章一	鳥類、行動生態学	鳥類	茨城県	国立科学博物館
7	川田 伸一郎	哺乳類分類学・遺伝学・生態学	食虫類	茨城県	国立科学博物館
8	窪寺 恒己	頭足類分類学、系統分類学、生態学	頭足類	茨城県	国立科学博物館
9	倉持 利明	寄生虫学	寄生虫	茨城県	国立科学博物館
10	齋藤 寛	軟体動物分類学	多板綱、溝腹綱、貝類	茨城県	国立科学博物館

3. GRBio: 地球規模での生物コレクションレポジトリ

GRBio [Personal Collections]

- 公的機関に保存されていない個人コレクションの情報。

Collection Code	Collection Name	Country	Status
ARS_HADB	A. R. Sherwood Algal Biodiversity Laboratory	USA	Active
AFBRC	Australian Flower Beetle Research Collection	Australia	Active
BHD	Barnabas H. Daru	South Africa	Active
BVictor	Benjamin Victor's Marine Fishes Collection	USA	Active
BCRC	Brett C. Ratcliffe Collection	USA	Active
CRA	Cristian R. Altaba	Spain	Active
DHJanzen and WHallwachs	Daniel H. Janzen and Winnie Hallwachs at University of Pennsylvania	USA	Active
DH	Daniel Handfield Lepidoptera research collection	Canada	Active
DJB	Donald J Buckle collection	Canada	Active
EGMC	Enric Gracia Myxomycete Collection	Spain	Active
FECRGA	Fungal Endophytes Collection of the Research Group of Agronomy	Spain	Active

GRBio [Personal Collections]

- 公的機関に保存されていない個人コレクションの情報。

Personal Collection: Cristian R. Altaba

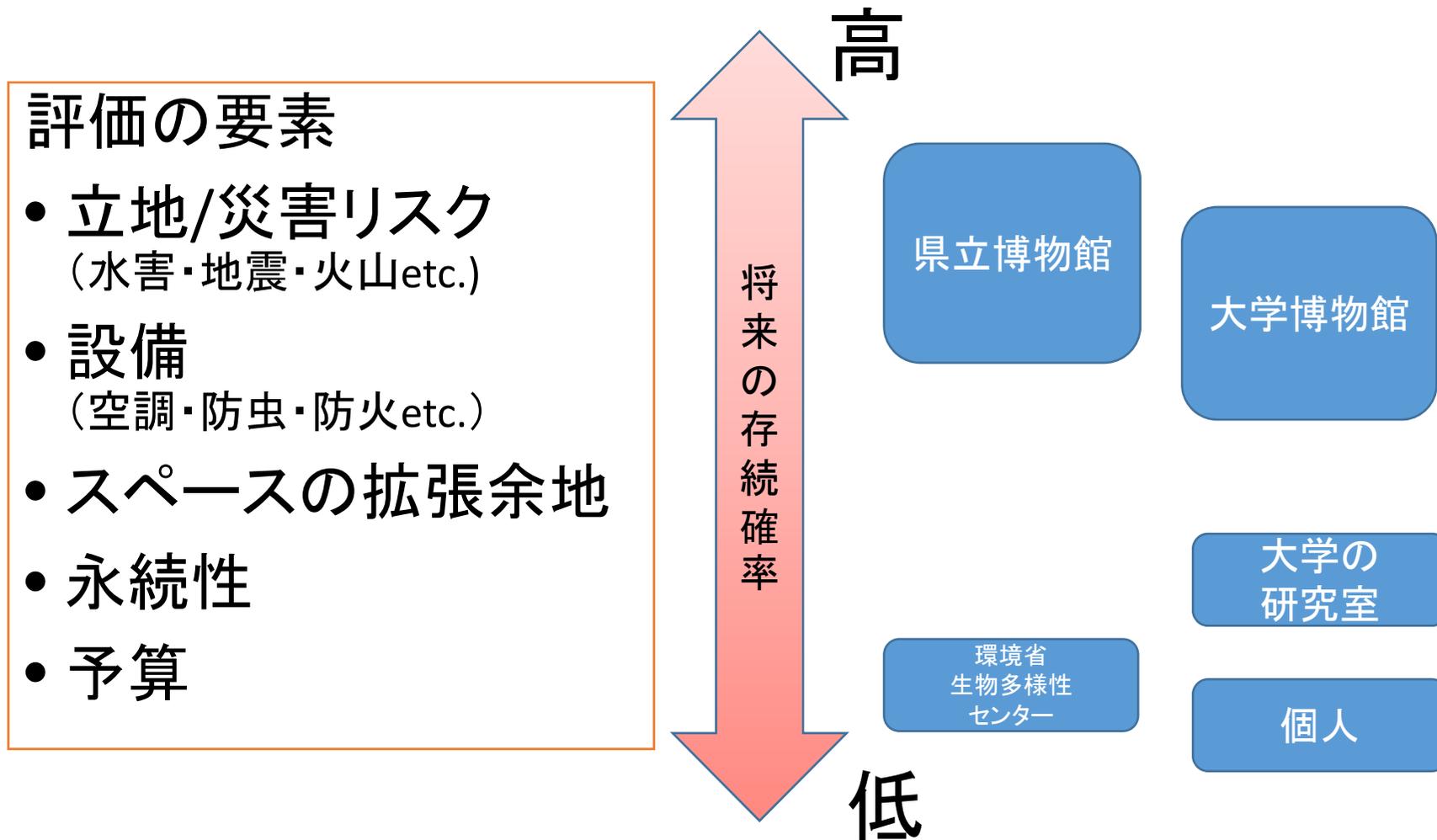
[View Record](#)

[Edit Record](#)

Collection Information

Institution Name:	Personal Collection
CollectionCode:	CRA
Status of Collection:	Active
Collection Description:	Reserach collection of all Mollusca. Over 14,000 catalogued lots (ca. 105 specimens). Shells (including fossils) and ethanol-preserved. Emphasis on western Mediterranean, also Europe, Macaronesia and North America.
Collection Content Type:	Biological: Other or Undefined
Preservation Type:	Storage Environment: Ambient controlled (indoors)
URL for collection:	(empty)
URL for collection's specimen catalog/database:	(empty)
URL for collection's webservices:	(empty)

コレクションの安定性評価



何か起きてからでは手遅れ。事前にリスクを点数評価した方が良いのでは？

個人蔵標本についてのアンケート 集計結果

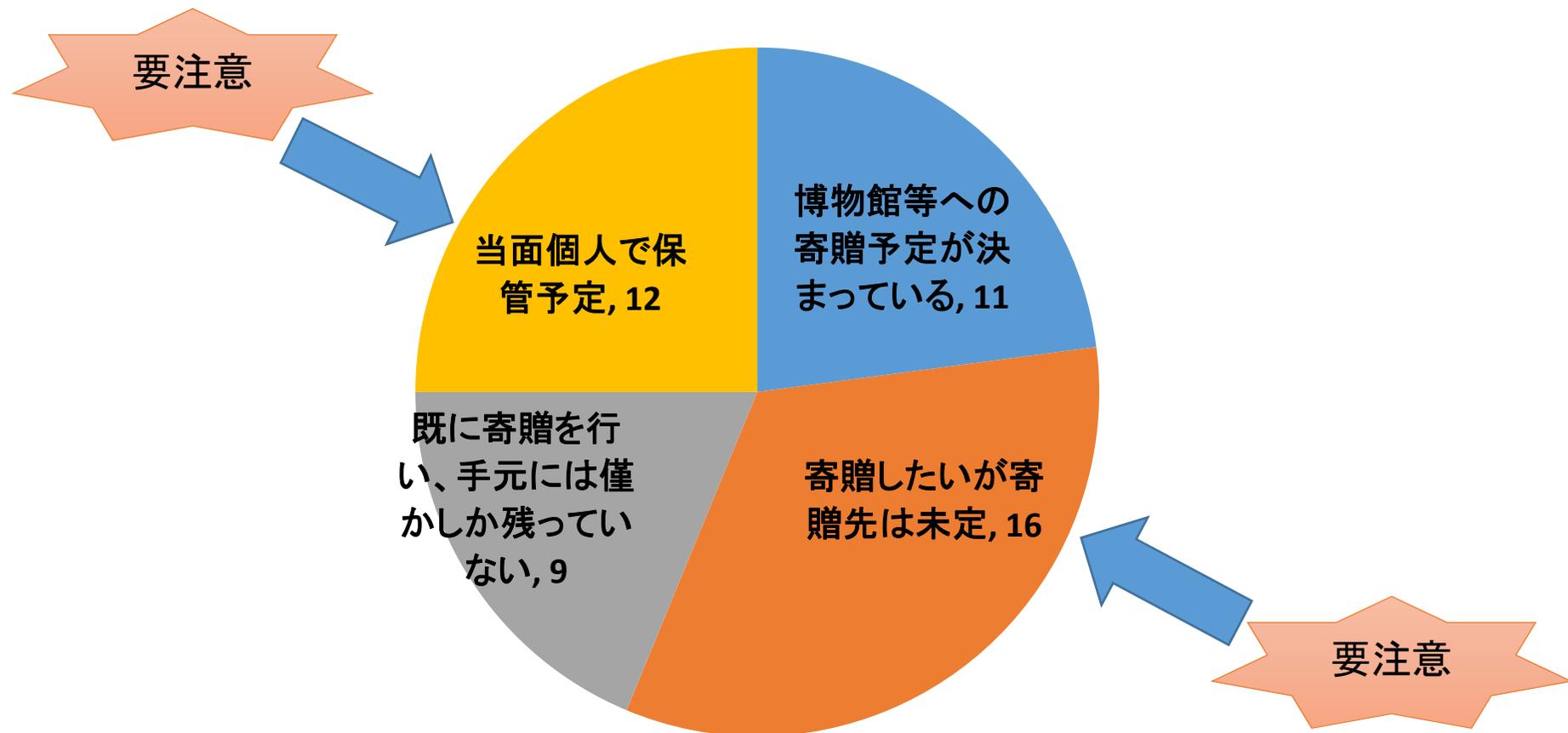
(日本シダ学会・日本シダの会)[2012年]

- 回答者: **35名** (回答率約8%)
- 現在個人で保管している標本の点数

計 約40万点 (1名平均 約11500点)

個人蔵標本についてのアンケート 集計結果 (日本シダ学会・日本シダの会)[2012年]

2. 今後の活用予定(複数回答可)



個人コレクションの情報収集の重要性

- 持続性の低いコレクション。

常時目を光らせておかないと、知らないうちに処分されて手遅れになる危険性がある。

- 全容把握は困難だが、とにかく膨大。

現在博物館等で登録されている標本総数と同等かそれ以上の点数が存在している？

まとめ

1. 「コレクション調査」とその意義
→活用促進 + 非常時対策
2. 日本でのコレクション調査の現状
→植物は大体完了、動物はこれから
3. GRBio: 地球規模での生物コレクションレポジトリ
→まずは機関略号をユニークにするところから